

## 刊行にあたって

本書は、特定研究「日本人の技術と生活に関する歴史的研究」の一環として実施した、「在来技術の伝統と継承—日本・韓国の鉄生産技術—」の『調査編』であります。当研究の成果は、ひきつづき刊行予定の『研究編』とあわせ完結をみることとなります。

「鉄」の歴史の解明が、人類史ないし列島史で占める重要性については贅言を要しませんが、本研究は分析科学の基本論題とされてきた、古代・中世製鉄技術の復原およびその歴史的展開をテーマとしております。すなわち、製鉄—精錬—鍛冶の各工程で生成される鉄滓・鉄素材、製品および原料、炉材等の識別および相互関連を一貫して追求するとともに、考古・文献学との共同研究によって、鉄国産化の始源と以後の地域的展開の実態を明らかにすべくスタートしました。

しかし、とくに理科学的分析をすすめるにあたっては、さまざまな難問に遭遇し、分析の方法論とマニュアルの作成に多大な時間を費やすこととなりました。その意味では、本報告書は7年間におよぶ試行錯誤の記録ともいえますが、ともかくここに鉄滓269点、鉄器94点の調査結果を集成・刊行する運びとなりました。調査成果については、識者の厳正な評価にゆだねなければなりません。多面的な考古学的観察をふまえ、最新の分析機器を介して、従来の化学分析法に加えて微量元素の放射化分析法を併用して作業を実施したことは、斯学の進展に一定の寄与をなしたものと確信しております。

今後深化すべき課題はすこぶる多岐にわたりますが、資料の提供から発掘現場の案内まで格別のご協力をいただいた、国内外の関係機関と各位に満腔の謝意を表するとともに、忌憚のないご叱正と今後のご指導をお願いいたします。

平成6年10月

研究代表者 吉岡康暢